

140101旅館業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2022	1	14 ～ 16	客室の清掃作業を行っていた被災者が、旅館内の階段を降りて移動していたところ、階段踊り場までの高さ84cmの位置から転落し、急性硬膜下血腫により意識不明となった。その数日後に死亡した。	413	1	50 ～ 99
2022	1	20 ～ 22	被災者は当該事業場で調理業務に従事していた。同僚労働者が帰宅途中、階段下で仰向けに倒れていた被災者を発見した。帰宅のため調理場を出て、事業場の敷地内にある12段のコンクリート階段を昇っていたところ誤って転落し頭部を受傷したと考えられる。被災後、救急車で搬送されたものの、翌日、急性硬膜下血腫により死亡した。	413	1	30 ～ 49
2022	1	14 ～ 16	施設外部に発生した、高さ3.42mの氷柱を樹脂製ハンマーで砕いていたところ、氷柱が被災者の方へ倒れ、被災者が地面と氷柱に挟まれて下敷きとなって死亡した。	719	5	100 ～ 299
2021	4	12 ～ 14	事業場が運営するゴルフ場利用者向けのロッジの管理人の被災者は、ロッジ内のカーポートの屋根上で屋根に積もった松葉の落葉の除去作業等をしていたところ、屋根材のポリカーボネート製波板を踏み抜き、2.4m下の地面（アスファルトコンクリート舗装）に墜落し、外傷性くも膜下出血を負った。発生後、病院へ救急搬送されたが、病院にて死亡が確認された。目撃者がいないため、発生状況等は推定。	415	1	30 ～ 49
		8	客が駐車場から県道へ乗用車を出す際に妨げとなっていた乗用車3台を被災者が順に運転して移動させていたが、客が駐車場を出る間際、客を見送			10

2021	4	～ 10	ろうと3台目の乗用車を県道に停車して車外に出たところ、ギアがリバー スに入ったままであったため乗用車が後進し、それを止めようと被災者が 乗用車後部に回り込んで押し返そうとしたものの、そのまま後方に停車中 であった客の乗用車との間に挟まれて死亡した。	231	17	～ 29
2021	5	12 ～ 14	災害発生当日の午前中、被災者は同僚に屋上で修繕の作業を行うことを伝 えて、1階のフロントを離れた。午後になっても、被災者が戻ってこない ことを同僚が不審に思い、屋上に赴いて確認したが、被災者の姿が見えな かった。風が強かったことから同僚が屋上の端から地上を覗き込んだとこ ろ、屋上から約30メートル下の2階バルコニー部分に倒れている被災者 を発見した。	418	1	10 ～ 29
2021	6	16 ～ 18	被災者は旅館の駐車場において、宿泊客の乗用車を運転して、バックで立 体駐車場に止めようとした際、当該駐車場の奥に設置されている金属製の フェンスを破って高さ約8.9メートル下の隣接する集合住宅の駐車場に 墜落したものの。	231	1	10 ～ 29
2021	7	18 ～ 20	被災者は、事業場が運営するゴルフ場の管理業務に従事する労働者だが、 作業を終え、退勤の打刻をした後、事業場の敷地内にある車両保管場所前 の道路上、トラクターを普段停車している場所から約28メートル坂を 下った場所で、エンジンが停止し、ギアがニュートラルの位置でサイドブ レーキの引かれていないトラクターの後部に取り付けた草集機の下敷きに なった状態で同僚に発見された。	169	7	100 ～ 299
2020	4	14 ～ 16	被災者が休憩室内の休憩スペースからトイレ間の通路で倒れ後頭部を強打 した。翌日休憩室内の当該場所で倒れている被災者を見出し、病院へ救急 搬送されるも、後日死亡した。	417	2	100 ～ 299
2019	3	10 ～ 12	被災者は、ホテルのエントランスの屋根に上がり、スコップで雪庇を落と していたところ、上方の屋根（三角）に積もった雪が滑り落ちてきて、被 災者がこれに巻き込まれ、約7m下の地面に墜落したものの。被災当時の天 気は晴れ、気温はプラスであった。	415	1	30 ～ 49
			被災者は、日常業務である旅客宿泊部屋の点検・清掃業務に従事してお			

2019	3	14 ～ 16	り、雑巾等の清掃用具をかごに入れ、ホテル内を移動していた。被災時、発見者は物が倒れるような大きな音を聞いたため、音がした1階と2階の間を接続する階段へ向かったところ、階段の踊り場で頭部から出血した状態で倒れている被災者を現認した。被災者は、救急搬送されたものの、翌日、急性硬膜下血腫により死亡した。	413	1	10 ～ 29
2019	4	0 ～ 2	当該労働者は、宿泊施設の調理師として勤務していた。3人いた調理師のうち1名が入院したため、業務量が増加していた。当該労働者は、自宅で就寝中、急性心筋梗塞、致死性不整脈で死亡した。	921	90	10 ～ 29
2019	4	6 ～ 8	県道で、原動機付自転車を運転して朝食の食材を近くのコンビニエンスストアへ購入しに行く途中、転倒し、10日後に死亡したもの。	231	17	10 ～ 29
2019	5	18 ～ 20	修繕担当の被災者が、当日午後から客室棟をつなぐ高さ約19mの渡り通路（小川の上に架けられたものでガラス張り）のガラスを外から雑巾で拭いていた。渡り通路の外側に手すり状の柵があり、その内側に脚立を設置し、ガラスを拭いていたところ、その下の小川で倒れているのを発見された。	371	1	30 ～ 49
2019	7	12 ～ 14	ホテルにおける災害。被災者は一人で1階床下の地下ピットへ入り、そこにある配管群に対する水漏れ箇所を探し、当該箇所をシールする作業を行っていた。作業開始から2時間ほど経過したところで同僚が呼び掛けたが、返事がなかったので同僚も地下ピットへ入ったところ、地下ピットの床を浸していた配管漏水による水溜まりの中に顔をつけて倒れている被災者が発見されたもの。	999	10	30 ～ 49
2019	9	12 ～ 14	清掃作業員（被災者）が脚立（天板までの高さ約80センチメートル）を使用し、玄関のガラスを雑巾で水拭きしていたところ、脚立ごと転倒したものの。	371	1	10 ～ 29
2019	11	14 ～	被災者は、事業主が所有する自動車勤務先へ向かって走行していたところ、対向車線にはみ出し、対向車と正面衝突したもの。被災者は宿泊施設で調理人として勤務する者であり、食材の仕入れの業務の帰路に被災し	231	17	1 ～ 9

		16	た。当時、現場の路面は数センチメートルの積雪がある状況だった。			
2018	1	10 ～ 11	旅館の敷地横にある川において、被災者の死体を同僚が発見した。	713	10	100 ～ 299
2018	4	14 ～ 15	ホテルへ出張し、塗装作業を単独で行っていた被災者が、床面に倒れているところを発見されたもの。被災者は、はしご状に開いた脚立の上で屋根の塗装作業を行っていたところ、バランスを崩して脚立と共に転落したものと推定される。保護帽、安全帯の着用はなかった。	371	1	10 ～ 29
2018	6	10 ～ 11	ミーティング中に気分が悪くなりトイレで倒れているところを従業員に見られ、病院に搬送されたが、くも膜下出血により同日死亡した。	921	90	100 ～ 299
2018	6	8 ～ 9	被災者は、社用車（A）で客先へ向け市道を走行中、市道と市道の交わる信号機の無い交差点に差し掛かったところ、助手席側の一時停止標識のある道路から乗用車（B）が交差点に進入し、衝突、被災者の運転する車はずみで対向車線に車線をふさぐように飛び出し、対向車線を走行してきた自動車（C）に運転席側が衝突し被災したものの。	231	17	50 ～ 99
2018	7	8 ～ 9	ホテル内の階段の掃除作業中、2階階段から1階まで墜落し死亡した。	413	1	10 ～ 29
2018	8	8 ～ 9	停泊中のクルーザーに乗り移るために使用する手こぎボートを栈橋に備え付けるため、テーブルリフターでボートを湖面に下ろし、被災者は栈橋まで漕いでいったが、テーブルリフターの操作を終えた同僚が栈橋へ行くのと、被災者の姿が見当たらなかった。湖面にボート、オール1本、被災者の靴が湖面に浮いていたため、湖を捜索したところ、30分後、ボート真下の深さ3.1mの湖底に沈んでいた被災者を見出し救出したが溺死したものの。	713	10	50 ～ 99
			旅館の壁に水漏れを確認した元左官工で風呂管理と建屋の軽微な補修を担			

2017	2	10 ～ 11	<p>当していた被災者は、支配人と話しあい屋上の防水補修を行うことになった。9時30分頃、支配人と被災者は3階屋上の露天風呂に移動。支配人は柵にロープを設置後、露天風呂を離れた。10時43分、駐車場で蒲団を干していた労働者がなにかが落ちる音に気づき倒れている被災者を発見。発見時被災者は足の痛みを訴えていたが、搬送先の病院で死亡が確認された。</p>	415	1	1～ 9
2017	2	14 ～ 15	<p>午後2時30分頃、被災者が5階ロッカー室のソファで意識のない状態で発見され、救急車で病院に搬送されるも、9日後に死亡した。死因は後頭骨骨折、脳挫傷であり、被災者が就労施設内のどこかで転倒したものと推定される。</p>	417	2	100 ～ 299
2017	11	6 ～ 7	<p>被災者は、常態として夜間帯のホテルの巡回、客対応等の業務に従事していたが、自宅での食事中に橋出血を発症して突然倒れた。</p>	921	90	50 ～ 99
2017	12	20 ～ 21	<p>調理師である被災者は、事業者の運営する飲食店での業務を終え、同事業者の所属事業場へ徒歩で移動中、路上で倒れているところを通行人に発見され、救急搬送されたが死亡した。被災者が倒れていた路上は凍結して滑り易くなっていた。</p>	417	2	100 ～ 299
2016	7	14 ～ 15	<p>ホテル内プールオープンのため、植木の剪定作業を行っていた施設管理担当の被災者が14時30分頃「蜂に刺された」と言って事務室に塗り薬を借りに現れた。約20分後、再び事務室に現れた被災者は机に手を付き、脂汗を流しながら「気分が悪いから近くの病院へ行ってくる」と言った直後、意識不明瞭となったため、救急車で病院に搬送されたが死亡した。</p>	719	90	30 ～ 49
2016	7	9 ～ 10	<p>出勤時、職員通用口へ向かう通路で滑って転倒し後頭部等を打った。打撲・擦り傷程度と考えていたが、5日後勤務中に気分が悪くなり倒れているところを発見され救急搬送されたが病院で死亡した。</p>	417	2	100 ～ 299
2016	7	2 ～ 3	<p>被災者は、翌日の勤務に備えて従業員宿舎で就寝していたところ、同宿舎に隣接する物置小屋から出火し、逃げ遅れた結果、焼死体となって発見された。</p>	391	16	1～ 9

2016	8	14 ～ 15	<p>宿泊客を出迎える為ホテル玄関先に出ていた被災者が、宿泊客をおろし、</p> <p>玄関先に停まっていたホテルのマイクロバス運転者に対し、次の客の到着時刻の変更を伝えようと、道路の運転席側に回り、窓越しに話をしていた</p> <p>ところ、背後から乗用車が突っ込む形でぶつかってきて、被災者ははねられ、全身打撲で死亡した。</p>	231	17	30 ～ 49
2015	2	17 ～ 18	<p>被災者は、厨房部門の調理員であるが、エゾフクロウの餌付けのために、</p> <p>ロビーから一望される沢に設置された生簀に活魚を入れる作業を行うに際し、川岸を除雪していたところ転倒し、溺水により死亡したもの。</p>	719	10	30 ～ 49
2015	1	23 ～ 24	<p>被災者が事業場敷地内の私道を通りしていたところ、私道脇の高さ約5m法面上に生えている高さ約5mの木が積もった雪の重みで根から倒れ、雪</p> <p>がなだれ、被災者の左胸に枝が激突し、かつ木に積もっていた雪に埋もれた。激突した木の枝は、そのまま被災者の胸を圧迫し、かつ、被災者の頭</p> <p>部も雪に埋もれたため呼吸困難となった。被災者は、病院へ搬送され蘇生処置に成功したものの低酸素脳症で意識不明となり3月17日に死亡した。</p>	719	5	10 ～ 29
2015	12	22 ～ 23	<p>平成27年12月2日（水）午後10時25分頃、宴会場の天井に据付けの照明灯の故障状況を確認するため、被災者が脚立に昇って作業していたところ、高さ約2メートルの位置から転落して頭部を強打し死亡したものの。</p>	371	1	50 ～ 99
2015	7	17 ～ 18	<p>おしぼりの洗濯作業を行った被災者の所在が分からなくなってしまい、同僚が探していたところ、半地下にある厨房横のドアから地上の洗濯場に続く階段で頭を下、足を上の仰向けの状態で倒れていた被災者を発見した。</p> <p>被災時は呼吸していたが意識はなく、病院で手当てを受けたが、翌日死亡した。</p>	413	1	10 ～ 29
2015	3	14 ～ 15	<p>労働者（運転手）が、同市内居住の労働者5名を、事業場提供の車両（事業場車両入替に伴い、レンタカーを代車としていたもの）で順次搭乗させ、事業場に向かって走行中、別の町の町道のトンネル内でスリップして</p> <p>ガードレールに衝突し、同乗労働者2名が死亡し、運転手を含む4名が負</p>	231	17	100 ～ 299

			傷した。			
2015	3	14 ～ 15	労働者（運転手）が、同市内居住の労働者5名を、事業場提供の車両（事業場車両入替に伴い、レンタカーを代車としていたもの）で順次搭乗させ、事業場に向かって走行中、別の町の町道のトンネル内でスリップしてガードレールに衝突し、同乗労働者2名が死亡し、運転手を含む4名が負傷した。	231	17	100 ～ 299
2014	2	1 ～ 2	被災者は、勤務終了後自家用車に乗り込み、翌朝、駐車場の当該自家用車の中で死亡しているところを発見された。車のエンジンをかけて雪の状態を見ているうちに、マフラーが雪に埋まり、一酸化炭素中毒になったと思われる。	514	12	1～ 9
2014	2	15 ～ 16	大雪のため、除雪の際に自分の車が邪魔になることから移動させようと車に乗り込み、そのまま除雪作業を依頼した業者の到着を車内で待っていたが、車内で寝てしまい、その後車内にいるところを発見されたが、一酸化炭素中毒で死亡した。	514	12	10 ～ 29
2014	4	0 ～ 1	出張中、宿泊していたホテルの客室にて、くも膜下出血により死亡した。	921	90	100 ～ 299
2014	7	11 ～ 12	客室外部に設置された浴槽のろ過装置を点検中、被災者は7.6m下の地上に墜落した。	418	1	30 ～ 49
2014	7	15 ～ 16	山小屋の住込みアルバイトである被災者は、従業員専用の浴室で指定された時間に入浴していた。被災者の次に入浴する順番である同僚の労働者が、浴室で被災者が倒れる音を聞いたため浴室のドアを開けたところ、頭部を浴槽内の水に浸けた状態の被災者を見つけた。	514	12	30 ～ 49
2014	8	14 ～ 15	バス用車庫にて、車庫屋根の明り取り部分の波板を張り替える作業を行っていたところ、スレート波板の屋根を踏み抜き、3.6メートル下のコンクリート床に転落した。	415	1	1～ 9

2013	9	16 ～ 17	ホテル駐車場のスロープ部分において、被災者が来客者の対応をしていたところ、車を駐車場に入れるため、加害者が運転してきた車によって撥ねられた。	231	6	100 ～ 299
2013	1	20 ～ 21	被災者は、和食担当の調理師として勤務していた。トイレへ行ったが、30分位経っても戻らなかったことから、同僚が様子を見に行ったところ、いびきをかき前屈みで倒れていた。救急搬送されたが、意識が戻らないまま、脳内出血により死亡した。	921	90	10 ～ 29
2013	6	17 ～ 18	温泉貯湯タンク（容量9立方m）の上部マンホールからタンク内に入り、タンク内部をホースで水洗作業中、2名が倒れ、両名とも死亡した。	514	12	50 ～ 99
2013	6	17 ～ 18	温泉貯湯タンク（容量9立方m）の上部マンホールからタンク内に入り、タンク内部をホースで水洗作業中、2名が倒れ、両名とも死亡した。	514	12	50 ～ 99
2013	9	22 ～ 23	宿泊予定であった客室に荷物等を置きに行った際、部屋の中で発作がおり、死亡した。	921	90	30 ～ 49
2013	5	8 ～ 9	被災者は、同僚労働者1名と事業場駐車場付近にある河川の斜面に自生する立木の伐採作業を行っていた。被災者は、立木に梯子を掛け、梯子に上りながら伐採作業を行っていたが、被災者のチェーンソーの音がしなくなったので、被災者から離れた位置で別の立木の枝打ち作業を行っていた同僚が、被災者の作業箇所に行くと、約7m下の河川でうつ伏せになって倒れている被災者を発見した。	371	1	30 ～ 49
2013	2	19 ～ 20	ホテルのバスが、ホテルエントランスを後退しながら公道に出ようとしていた。たまたまエントランスにいた被災者は、バスの後退誘導を行っていたが、バス運転者が電柱のある右方向に急にハンドルを切ったため、被災者が運転席のある方に移動したところ、背後にあった電柱との間に挟まれた。	231	7	50 ～ 99
		13				

2013	3	～ 14	客室清掃作業中、階下の玄関口へスリッパを揃えようと階段を降りていたところ、何らかの理由によって転がり落ち、頭部強打により死亡した。	413	1	1～ 9
2013	8	～ 19	調理場内出入り口付近において気分が悪くなり倒れ、救急搬送されたが、脳幹出血により死亡した。	921	90	100～ 299
2013	7	～ 12	旅館の大浴場脱衣所にて、同僚と二人で天井裏にある換気扇を清掃作業中、同僚が天井裏へ脚立で昇り、取り外したフィルターを被災者に手渡し、被災者はそれを掃除して、再び、脚立に昇って天井裏に置いたあと、何らかの事由によりバランスを崩して脚立とともに床面へ墜落して頭部を強打し、病院へ搬送されたものの死亡した。	371	1	50～ 99
2013	3	～ 8	被災者は、ホテルの宿泊支配人兼飲料支配人として勤務。自宅で就寝中に胸が苦しいと訴え、救急搬送されるも急性心筋梗塞で死亡が確認された。インターネットによる宿泊の管理作業を会社内だけでなく自宅でも行い、またその確認作業を真夜中や早朝にも行ったために十分な睡眠がとれず、それによって疲労が蓄積していた。	921	90	50～ 99
2013	11	～ 18	被災者は、雪の積もった村道で脱輪した車の救出作業に出向いた。作業終了後、被災者は事業場に戻る途中、村道を軽トラックで走行していたところ、積雪により脱輪して進行方向左側の斜面を約11m下の草地へ滑落し、胸や腹を強打して死亡した。	221	17	10～ 29
2013	8	～ 22	事業場は老舗の温泉旅館である。火災により、木造建築の旅館建物及び物置の計約700平方メートルが全焼し、事業場に住み込みで勤務していた女性労働者1名が現場の焼け跡から焼死体で発見された。	418	16	1～ 9
2012	7	～ 10	被災者は地上8階建てのホテルの屋上から墜落し、駐車していた自動車の横に倒れているところを発見された。	418	1	1～ 9
2012	9	～	被災者は軽自動車を運転し事業場に戻る途中、信号機がない交差点において片側2車線の国道に出ようとしたところ、その国道を走行していた大型	231	17	50～

		12	トラックに衝突し、全身打撲により死亡した。			99
2012	12	12 ～ 13	被災者は浴槽の窓を清掃中、誤って崖から（約40m）下に転落し、救急搬送先の病院で死亡した。	417	1	50 ～ 99
2012	1	6 ～ 7	高速道路パーキングエリア内で、被災者はくも膜下出血を発症し、救急搬送先の病院で死亡した。	921	90	10 ～ 29
2011	2	19 ～ 20	被災者がホテルフロントカウンター内に入室後間もなく入口付近にしゃがみ込み、立ち上がろうとして仰向けに倒れ、後頭部を打ち意識不明となったもの。被災者は、救急車で病院に搬送されたが、翌2月24日の18時35分に死亡した。	416	2	50 ～ 99
2011	10	14 ～ 15	被災者は、同僚と2人で公道にはみ出した敷地内のクヌギの木の枝（長さ約10m）を切る作業中、はしごに登り、チェーンソーを使用して枝を切り終えたところで、はしご上部でバランスを崩して高さ約4mの位置から地上に墜落した。被災者は、入院先の病院において10月20日に死亡した。	371	1	50 ～ 99
2011	3	9 ～ 10	伐採した枝の片付け作業を命じられた被災者が、コンクリート擁壁上で付近に落ちている枝を集めていたところ、約4メートル下の町道に墜落し、死亡した。	418	1	50 ～ 99
2010	11	14 ～ 15	産業廃棄物処理業者の構内において、被災者がゴミ収集運搬車（パッカー車）で運搬してきた空缶を降ろす作業中、テールゲートの回転する鋼板に全身を巻き込まれたもの。テールゲート内に詰まっていた空缶を取り除く際に誤って作動スイッチを押したとみられる。	221	7	1～ 9
2010	10	8 ～ 9	ボイラー室に清掃用具を片付けに行った被災者が戻らないので、同僚が様子を見に行ったところ、階段下に倒れている被災者を発見した。階段上には被災者が履いていたスリッパが片方残されていた。被災者は頭部を強く打っており、階段から墜落したものと推定される。	413	1	10 ～ 29

2010	9	15 ～ 16	<p>シュノーケルインストラクターである被災者は、シュノーケルツアーを終了して事業場に戻り、事業場内にあるマリンハウスの浴槽で無呼吸で素潜り時間を長くする訓練を1人で行っていったところ、意識不明となった。病院へ搬送したが、約2週間後に死亡した。長く呼吸を止めた状態からくる意識喪失（ブラックアウト）により溺死したとみられる。</p>	713	10	～ 99	50
2010	9	10 ～ 11	<p>ホテル内の高さ約4.3mの中庭において、樹木の剪定ででた枝葉等をかき集め、高さ約3mの新館通路上でゴミ袋に入れる作業を終了し、中庭に戻ろうとしていた被災者が、地面に墜落し、頭部打撲した。その後、入院加療中であつたが、約10日後に死亡した。墜落防止措置がなされていなかった。</p>	418	1	～ 99	50
2010	8	8 ～ 9	<p>被災者が自走式草刈機を使って草刈作業中、平均傾斜角28度の斜面で転落し、U字側溝の角に頭部を強く打ちつけたものと推定される。負傷後に当該現場から100m程離れた場所に座しているところを同僚作業員に見されたもの。頭痛や歩行困難等の状況があつたことから、病院に搬送したが頭部の負傷により死亡した。</p>	711	1	～ 29	10
2010	8	20 ～ 21	<p>被災者は観光客送迎用バスの運転業務を行っていたが、観光客を宿に降ろして、バスを駐車位置に移動させた後、バスから100m離れた事務所に戻る途中、バスから22mの所で道路脇の川に転落し、死亡した。翌日、川底に倒れているのが発見された。</p>	417	1	1～ 9	1～
2010	7	12 ～ 13	<p>ホテルの同一敷地内に住んでいた被災者は、敷地内に生い茂ってくる枝を剪定する作業を脚立上（はしご状に伸ばし立てかけて）で行っていた。被災者が脚立上部に昇り過ぎたため、バランスが崩れて脚立が壁を乗り越えて、被災者は脚立もろとも倒れた。被災者は災害の2日後に近隣の住民により発見されたが既に死亡していた。</p>	371	1	9	1～
2010	4	13 ～	<p>構内の立木が高圧電線に触れそうなため、施設管理担当者4名で枝を落として安全な状況にする作業中、高さ11m程度の木の途中、高さ6mほどの枝の上に乗って、高さ7m程度の位置で切り離し、枝の付いた上部をチルホールで引っ張って倒そうとしたところ、倒れる前に切り離した元が動</p>	712	4	～	30

		14	いて切り離れた部分が下に落下し、切り離れた部分の枝に頭部を叩かれ、死亡した。			49
2010	3	10 ～ 11	ホテル敷地内において、カーポートの雨樋の排水口に詰まった木の葉などを取り除くため、脚立に乗り作業を行っていたところ、脚立ごと倒れアスファルト床に転落したもの。被災後、意識不明の状態であったが、4日後に死亡した。目撃者はいないが、カーポートの雨樋の高さが約3mであることから、脚立の上から2段目の踏み棧（高さ約1.7m）に足を掛けて作業を行っていたとみられる。	371	1	10 ～ 29
2009	1	12 ～ 13	ホテルフロント従業員が全焼したホテル事務所で死亡した。	351	16	1～ 9
2009	8	21 ～ 22	夜勤にて使用電力量を監視していた被災者が、勤務している建物の非常階段側の地面において倒れている姿を発見された。非常階段は踊り場を含め高さ95cm以上のコンクリート製擁壁で囲われている。着衣は勤務当時のもの、靴は履いたままであった。階段の照明装置は機能していた。被災者には2階と4階を移動する用務があったが、通常はエレベータを利用している。	413	1	100 ～ 299
2009	4	8 ～ 9	同僚の車に同乗して出勤しようとしていた被災者は、事業場の来客用駐車場で下車し、駐車場に隣接する従業員寮に向かって歩き始めたところ、方向転換しようとして後進した同僚の車の後部に接触して転倒し、駐車場のコンクリート地面に身体を強打した。当日、病院に搬送されたが後日死亡した。	231	6	30 ～ 49
2009	12	16 ～ 17	チェックイン前の客室内の点検を被災者を含む数人で行っていたが、被災者が担当した6階客室に併設されたバルコニーに1m程度の積雪があったことから、エアコン室外機の周辺の除雪を行おうとしたか、もしくはバルコニー直下にある地下駐車場通路の方向の雪庇（せっぴ）を除去しようとしていたところ、19.1m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	10 ～ 29

2009	1	18 ～ 19	ホテル内の階段踊り場に、仰向けで倒れている状態で発見された。搬送先で意識不明であったが、18日後に死亡が確認された。	413	1	～ 99	50
2009	1	13 ～ 14	勤務する宿泊施設の賄い業務の一環として、事業者が用意した軽自動車を使って食材の買い出しに行った。その帰り、さしかかった右カーブを曲がりきれず、道路脇の電信柱に衝突した。	231	17	～ 49	30
2009	4	14 ～ 15	倉庫において、被災者と同僚作業員1人が簡易リフトを使って段ボールに入った荷物を1階から2階に上げようとしたところ、簡易リフトに搭乗していた被災者が1階天井下の木枠と簡易リフトの搬器の上部との間にはさまれた。	214	7	～ 49	30
2008	12	7 ～ 8	勤務先であるホテルの階段下に倒れているところを同僚作業員から発見された。直ちに療養機関に搬送し療養中に死亡した。	413	2	～ 29	10
2008	5	12 ～ 13	露天風呂の建設のため、海岸から岩石をドラグ・ショベル（機体重量2.48t）で運搬中、ドラグ・ショベルが転倒してヘッドガードと地面の間にはさまれた。	142	2	～ 49	30
2008	5	14 ～ 15	被災者が2階の窓から中2階屋根上に上り、当該屋根の雪にホースで湯をかけて溶かしていた際、当該屋根雪と繋がっていた2階の屋根の雪（幅510×長さ400×高さ280cm）が2階の屋根から滑落してきて、被災者がそれに巻き込まれた。	719	5	～ 29	10
2008	1	10 ～ 11	崖の上に設置されてある露天風呂の湯量調整を被災者と同僚で声を掛け合いながら行っていた。作業途中で被災者からの返答がないので不審に思い、床下等を搜索したところ、約60m下の岩場に被災者が倒れているのが発見された。	417	1	～ 99	50
2008	1	11 ～ 12	4階建旅館の2階と3階の客室窓ガラス清掃作業を1階屋上石庭から行っていたところ、バランスを崩して約5m下のコンクリート製階段踊り場付近に墜落して死亡した。	418	1	～ 29	10

2008	6	8 ～ 9	地震により旅館建屋付近の斜面から崩れた土砂が建屋脇を流れる沢を埋めた。このため上流からの土石流の流れが遮られて土石流が旅館建屋の方に流れ込み、経営者家族4名、作業員3名、宿泊客2名の計9名が飲み込まれた。	719	5	1～ 9
2008	6	8 ～ 9	地震により旅館建屋付近の斜面から崩れた土砂が建屋脇を流れる沢を埋めた。このため上流からの土石流の流れが遮られて土石流が旅館建屋の方に流れ込み、経営者家族4名、作業員3名、宿泊客2名の計9名が飲み込まれた。	719	5	1～ 9
2008	6	8 ～ 9	地震により旅館建屋付近の斜面から崩れた土砂が建屋脇を流れる沢を埋めた。このため上流からの土石流の流れが遮られて土石流が旅館建屋の方に流れ込み、経営者家族4名、作業員3名、宿泊客2名の計9名が飲み込まれた。	719	5	1～ 9
2007	8	12 ～ 13	ホテルの送迎用マイクロバスが送迎先から事業場へ戻る途中、国道（2車線）の直線道路で、ライトバンに追突し、はずみでマイクロバスが対向車線へ飛び出し、大型トラックに正面衝突した。	231	17	50 ～ 99
2007	9	12 ～ 13	ホテル建物の8階外部装飾に鳩が入ってくるのを防ぐため、被災者は鳩よけネットを取り付けようと、この外部装飾に上り作業をしようとしていた。この部分はコンクリートとベニヤ板でできており、被災者はこのベニヤ板部分を踏み抜き1階まで墜落した。	418	1	1～ 9
2007	4	8 ～ 9	パソコン入力作業中、突然倒れ、死亡した。	921	90	50 ～ 99
2007	4	6 ～ 7	山小屋の開業準備のため、被災者他4人が、山小屋を出発し山奥の小屋に向かったが、正午頃、天気が急変した。午後2時頃、先頭の被災者が雪庇を踏み抜き約20m滑落した。他4人は被災者に先に行くよう指示され、午後4時頃、山小屋に到着したが、被災者は到着せず、翌朝、雪洞の中で発見されたが、既に死亡していた。	715	11	1～ 9
			被災者は空港へ乗客を迎えに行くため、ホテルの車（ワンボックス）にて			

2007	3	9 ～ 10	県道を走行中、対向方面から走ってきた大型トラックが、右折のため停車していた前方車両に気付くのが遅れ、避けようとして対向車線にはみ出し、被災者の車と正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2007	9	16 ～ 17	山小屋の従業員が、従業員用の浴室においてガス湯沸かし器を使用して入浴中死亡した。ドアを締め切っていたため不完全燃焼を起こしたと思われる。	514	12	10 ～ 29
2007	7	23 ～ 24	事業場の駐車場から高さ約17m下の河川において、死亡していた被災者が発見された。被災者は、バケツの中にある花火の廃水を、当該駐車場から河川に捨てようとした際、手すり等が無かったため誤って墜落した。	419	1	30 ～ 49
2007	1	22 ～ 23	出張宴会の業務に従事した後、乗用車（ライトバン）に乗り会社に帰る途中、交差点内でトラックと衝突し、同乗者の3名のうち、被災者1名が死亡した。	231	17	50 ～ 99
2007	3	13 ～ 14	ホテル玄関前を自走式除雪機を使用し除雪作業中、被災者が除雪機をバックさせた際、足下の雪に足を取られて転倒し、そのまま除雪機にひかれた。	169	7	30 ～ 49
2007	3	18 ～ 19	会社所有の送迎車にて帰宅するため、降雪により視界不良の中、片側2車線の凍結路面を時速60kmにて走行中、道路左側の店舗駐車場から急に出てきた車を避けようとしてハンドルを左に切りブレーキを掛けたところ、制御不能となり、道路左側の電柱に衝突し、さらに中央分離帯へ衝突した。この衝突の衝撃により、送迎車に同乗していた被災者が車外に投げ出された。	231	17	50 ～ 99
2006	5	5 ～ 6	被災者は、ホテル宿泊客の朝食の準備のため、出勤し1階食堂の鍵を開けると、盗み目的で先に侵入していた容疑者がおり、発見されたことからビール樽で数回殴られた。	999	90	10 ～ 29
2006	6	9 ～ 10	タケノコ（チシマザサの若芽）を採りに山中に入った被災者が、熊に襲われ死亡した。	911	90	1 ～ 9

2006	6	13 ～ 14	研修のため外出中、地下鉄駅でホームの端から約1 mぐらい手前でかがんで電車を待っていた。電車が来たので立ち上がった際、前によろめいた感じでホームに落ち、電車に跳ねられた。	418	1	～ 99
2006	2	7 ～ 8	事業場内の敷地内にある10 t湯タンクにおいて、被災者がタンク点検口のふたを開け、タンク内の湯の温度を測定しようとした際に当該点検口から落ちた。	419	10	～ 99
2006	1	3 ～ 4	事業場の屋上で人を探していたところ、誤って墜落した。	418	1	1～ 9
2005	5	21 ～ 22	空中ブランコショーにおいて、4mの高さでブランコを両手で持ち、蹴上がりしようとして後ろに反動をつけて前方に足を振り上げたところ、手がすべり墜落した。	379	1	～ 299
2005	8	13 ～ 14	国道を走行してきた普通乗用車がセンターラインをはみ出し、道路に面した駐車場で除草作業をしていた被災者に突っ込んできた。	231	17	1～ 9
2005	11	19 ～ 20	山林内でショベルカーを運転し、遊歩道を整備しているとき、ショベルカーが法面を8m転落し、ショベルカーの下敷きとなった。	141	1	～ 99
2005	5	14 ～ 15	マイクロバスで走行中、県道脇の小川に転落した。	231	17	1～ 9
2005	1	11 ～ 12	トタン屋根の軒先にできた氷柱を除去するため、屋根に上り、頭上の氷柱を棒で落とそうとした時、屋根面で足を滑らせ、7m下の道路に墜落した。	415	1	～ 49
2005	3	17 ～ 18	屋根に出来た氷柱を落とす作業中、はしごが後方に倒れたはずみで、ベランダに墜落した。	371	1	1～ 9

2004	4	11 ～ 12	車を運転中、ハンドル操作を誤り車が横転し、車外に放り出された。	231	17	1～ 9
2004	7	19 ～ 20	旅館の夕食に振舞う予定の刺身を近くの鮮魚店から仕入れ、手押し車にのせて旅館に運搬中、横断歩道において、国道を走行してきた軽自動車にはねられた。	231	17	1～ 9
2004	2	21 ～ 22	油圧伸縮作業台を使用して天井付近にあるバー（鉄パイプ）にカーテンを取り付ける作業で、1つ目のカーテンを取り付け後、油圧伸縮作業台に被災者が乗ったまま、別の作業者が油圧伸縮作業台を人力で移動させたところ、車輪がダンスパネル（厚さ2.5cm）に乗り上げて油圧伸縮作業台が転倒し、作業台上にいた被災者が、3.65m下の床に墜落した。	391	1	30 ～ 49
2004	2	13 ～ 14	消防設備の火災警報器の地下の警報ランプが点いていたので、地下電気室の天井にある煙感知センサーを点検中、近くにあった変電設備の6600Vの高圧電路のジスコンに触れ感電した。	352	13	1～ 9
2003	12	8 ～ 9	ホテル玄関と駐車場の雪かきに出かけた者が戻ってこないで周辺を探したところ、駐車場で雪に埋もれた軽トラックの助手席で一酸化炭素中毒によりぐったりしているところを発見された。	514	12	1～ 9
2003	11	5 ～ 6	ホテルの夜間フロント係が、夜間の巡回中に元同僚に刃物で刺された。	911	8	50 ～ 99
2003	11	20 ～ 21	ダムベータで客室から引き上げた食器類を5階の厨房へ運ぶため、4階でダムベータの搬器内へ積み込もうとしたところ、搬器が5階に停止していて4階には来ていなかったため、4階昇降路の荷の出入口から約10m下の昇降路底部へ墜落した。	418	1	1～ 9
2003	9	0 ～ 1	8階建ホテルの6階ベランダの端部で窓拭き作業中に、ベランダに設置のコンクリート製手すり（高さ約1m、幅17cm）を超えて約15m下の外部非常階段の2階と3階の間の踊り場に墜落した。	418	1	30 ～ 49

2003	6	14 ～ 15	駐車場にバーベキュー用の仮設小屋を建てる作業で、屋根部分に塩化ビニル製の波板を葺く準備としてあらかじめ波板の寸法を確認するため、脚立を使って軒の高さまで上ろうとしたときに、足を滑らせ約1mの高さからアスファルト路面に転落した。	371	1	1～ 9
2003	6	14 ～ 15	ホテル従業員がホテルの前庭で乗用芝刈り機械（タイヤ式、機体質量約200kg）を使用して作業中に、芝面（傾斜面で約15度）で芝刈り機械が転倒し下敷きになった。	169	2	30 ～ 49
2003	4	20 ～ 21	到着予定の団体宿泊客のために宿坊1階の客室を石油ストーブで暖めていたところ、何らかの原因で出火して木造二階建宿坊（延べ1500m ² ）が全焼し、ストーブで暖めていた者が焼け跡から焼死体で発見された。	418	16	1～ 9
2002	8	8 ～ 9	斜面の草取りで石の上に足をかけて上方の草を取ろうとしたときに、足が滑って側溝に転落し頭部を強打した。	711	1	10 ～ 29
2002	3	10 ～ 11	ゴルフ練習場内に倒れていた松の倒木を撤去するため、トラクタショベルで取付け道路を下っていたときに、路肩から転落しトラクタショベルの下敷になった。	149	1	10 ～ 29
2001	5	22 ～ 23	出張の帰り自動車道を走行中、パーキングエリア付近で追い越し車線の進行方向とは逆向きに停車中に、対向のトラックが衝突してはじき飛ばされた、さらに後続の別のトラックに衝突された。	231	17	50 ～ 99
2001	12	7 ～ 8	忘年会に出すシャモ鍋の食材買い付けのため軽トラックを運転で国道を走行中、道路左側の駐車スペースに停車していた大型トラックに追突した。	221	17	1～ 9
2001	12	22 ～ 23	調理場で出たゴミを同ホテル備え付けゴミ貯溜機械装置へ投入で、コンテナ取手の回転範囲に身体を入れたときに、反転してきたコンテナの取手と投入口下部のフレームとの間に頸部を挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2001	10	13 ～	料理用の魚をホテルに届け普通トラックで国道を走行中、センターラインを越えたため対向の車2台に接触及び正面衝突した。	231	17	50 ～

		14						99
2001	8	17 ～ 18	客先に品物を届けるため軽乗用車で県道を走行中、対向の乗用車が軽乗用車を追い越した車を避けようとして急ブレーキを掛けたところスリップし、センターラインを越えてきて正面衝突した。	231	17	～ 299		100
2001	7	19 ～ 20	プール用ろ過装置の洗浄作業中にろ過装置から排出された水が排水溝からあふれ出てコンクリート床面に約5cm浸水している作業用通路で、金属製の外灯用ポールに触れ感電した。	351	13	～ 299		100
2001	6	10 ～ 11	分譲リゾートマンション6階の共用通路において、居室の窓の汚れを通路側からウエスで拭きとっていたときに、手すり(高さ約1.1m)を乗り越えて、約15.5m下のマンション中庭部分に墜落した。	418	1	～ 99		50
2001	5	14 ～ 15	敷地周囲のネット状のフェンスが倒れたため、フェンスから約9m離れた立木に滑車を番線で固定し、繊維ロープをフェンスから滑車を回しトラックで引っ張ってフェンスを引き起こす作業を行っていたところ、滑車を止めていた番線が切れて滑車が激突した。	379	4	～ 49		30
2001	1	7 ～ 8	フロント横の仮眠室で起床し業務の引継ぎのために身支度を整えていたところ、2段ベッドの上段に忘れ物をしたため梯子を昇ろうとして足を踏み外し転落した。	391	1	～ 49		30
2000	4	11 ～ 12	ホテル駐車場にある汚水タンクの異臭処理のため、ホテル裏の斜面の中腹(川床からの高さ約5m)に設けた排水パイプからの排水の出具合を調べに行って高さ約3mの岩の上から誤って川(水深約2m)に転落して溺死した。	711	1	～ 49		30
2000	7	20 ～ 21	監視員として宿泊客の夜間観光のための遊覧船に乗船していて湖を約600m航行した地点で乗船口より湖に転落し、溺死した。	239	10	～ 99		50
2000	2	17 ～ 18	ホテルの厨房において、上司が後片付けを指示したが遂行されていなかったため、頭を木製の盆で叩きさらに転倒した腹部への足蹴りにより肝臓が破裂した。	999	99	～ 99		50
		11	山林の貯水場で単独で草刈りを行っていた者から携帯電話で事務所に「蜂					30

2000	8	～ 12	に刺された。ちょっとおかしいので病院に行きたい」という連絡があったので、その行方を捜したところ、貯水場に向かう途中の林道で移動用の重機の上で意識不明となっていた。	719	90	～ 49
2000	12	～ 9	8 ホテルの厨房内において、電気スूपケトルでシチューの調理中に、ケトルの熱源側の鏡板が突然破裂し、シチューを調理していた者が死亡し、近くで調理していた者1名が臀部に軽いやけどを負った。	319	15	～ 99
2000	11	～ 18	17 9階建ホテル屋上の排気装置の補修工事予算要求資料を作成するため、屋上で排気装置の写真を撮影していたときにあやまって高さ30mの屋上から墜落した。	419	1	～ 29
2000	12	～ 3	2 木造平屋の建物が全焼しその建物にひとりで居住していた者が焼死した。	418	16	～ 29
2000	12	～ 8	7 ホテルで、チェックアウト後の火の元などの確認中に、2階客室で換気のために窓を開けているときに窓から約4m下のコンクリート面に転落し、さらに近接する水路に落ちた。	419	1	1～ 9
2000	8	～ 12	11 湖のボート乗り場において、手こぎボート内に溜まった雨水をひしゃくでかき出す作業中に、ボートから湖(水深12m)へ転落して、水死した。	713	10	～ 29
2000	2	～ 11	10 送迎用マイクロバスでホテルの客4人を駅まで送った後バスを回送するため国道を走行中、急カーブで対向車線にはみ出しタンクローリー車と正面衝突した。	231	17	～ 49
1999	12	～ 18	17 4名で波害から守るため5隻の小型ボートを人力で栈橋へ上げたのち、栈橋上に一人残って波、ボートの状況を見るため栈橋上を歩行中、あやまって湖(約2m)に転落して溺死した。	413	10	～ 299
1999	8	～ 16	15 営業のため徒歩で路上を歩行中、後方から走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	300 ～

1999	3	0 ～ 1	事業場内の林において樹木の害鳥による被害状況の確認を行なっていたところ、誤って崖から海辺の岩場に墜落した。	711	1	100 ～ 299
1999	2	13 ～ 14	客の車を預かって駐車場内を移動させたときに駐車場の柱に車を接触させたため、接触跡を確認するために運転席ドアを開けて降車したところ、ギアがバックに入っていたので車が無人のまま後方に動き出し、車体と柱との間に挟まれた。	231	7	1～ 9
1999	4	15 ～ 16	国民宿舎で、屋上の雨漏りの点検中に12メートル下のコンクリート路面に転落した。	415	1	10 ～ 29
1999	4	10 ～ 11	ホテルの5階客室の窓を清掃するため、窓枠に足を掛け身体を乗出すようにして作業を行っていたとき、バランスを崩し3階の底部分に墜落した。	418	1	50 ～ 99
1999	3	13 ～ 14	立体駐車場の操作盤付近でゴンドラの操作及び車の誘導を行なっていたときに、同僚が客の車を構内の別の場所に移動させるため運転してこの車にひかれた。	231	6	100 ～ 299
1999	3	11 ～ 12	電気室の高圧受電盤のパイロットランプの消えているのに気づいて交換しようとしたがランプが点灯しないため、立入り禁止の受変電設備内に入り、裏側で作業をしようとしたときに、感電した。	352	13	50 ～ 99
1999	1	2 ～ 3	ホテルで食器洗浄等の業務を終え従業員3名を会社の乗用車で同僚を送る途中、雪でスリップして大型トラックと正面衝突した。	231	17	30 ～ 49
1999	1	18 ～ 19	当日の作業が終了し、会社の送迎用ワゴン車で帰路につき、自宅に着いたので降車しようとして自分でドアを開けて降りたときに着ていたコートがドアに挟まり、運転者がこれに気付かずに車を発進させたため、引きずられて頭部が後輪に巻き込まれた。	231	17	30 ～ 49

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。